

東北未来創造 パートナーシップ・フォーラム



去る4月21日、東北未来創造イニシアティブ・経済同友会共催により「東北未来創造パートナーシップ・フォーラム」が開催された。東北の社会的課題に対峙し、その克服に挑戦する社会起業家六人が、自身の思いと事業概要、事業を通して見た東北の現状と課題、今後の構想について語った。

開会挨拶

開会挨拶で長谷川閑史代表幹事(当時)は、「震災以降、『東北未来創造イニシアティブ』への特別協力をはじめ、手探りで復興支援を続けてきた。震災の傷跡はまだまだ大きい、そのような中

でも、人々はお互いを思いやり、志を共有する仲間を見つけ、一歩ずつ前に進もうとしている。そのような出会いの価値を、あらためて皆さんと共有できれば、これに勝る喜びはない」と語った。

野田智義東北未来創造イニシアティブ協働PT委員長は、「三年前から始

まった『東北未来創造イニシアティブ』だが、気が付けば、地方創生の先端を走りながら格闘していると感じる。東北が抱える問題は今後一層深くなる。本日参加した皆さんに、六人のプレゼンテーションを聞いていただき、出合いや協働がここから生まれることを期待したい」と語った。

三陸の地から 「稼げる漁業」を実現する

一般社団法人
フィッシャーマン
ジャパン
阿部 勝太 氏

■事業概要

宮城県石巻市で、次世代に引き継ぐ「稼げる漁師」を目指し、業者や消費者向けツアーの企画、販路の開拓・共有化、商品開発などの事業に挑戦。



私は地元の五人の漁師と共に漁業生産組合「浜人」を立ち上げ、さらに、地域や業種の垣根を越えた取り組みとして発展させるべく、三陸各地の若手漁師や鮮魚卸などによる「フィッシャーマンジャパン」を立ち上げた。目指すのは次世代に引き継げる「稼げる漁業」の確立であり、10年で1,000人の新規漁業者を増やしたいと考えている。そのため、大手企業等と協力しながら、新商品の開発、営業開拓、イベント・催事の開催、ITサービス(ネットショッピング)を戦略的に展開し、三陸の良質な水産品のブランド構築などに積極的に取り組んでいる。

私たちの挑戦は、まだ始まったばかりであり、引き続き新たな販路を開拓していくことが課題となっている。そして、今後私たちの活動のネットワークが被災地だけでなく全国に広がり、日本の漁業の活性化につながることを願っている。

耕作放棄された農地で 綿を有機栽培で育て製品化

特定非営利活動法人
ザ・ピープル
吉田 恵美子 氏

■事業概要

福島県いわき市で、放射性物質の移行係数が低いといわれる綿を有機栽培で育て、オーガニックコットンを製品化する一連の事業モデル構築に挑戦。



2012年春より、原発事故の影響により耕作放棄された農地で、綿花(和綿)の有機栽培を開始した。収穫した綿花を素材に、地域の女性で作ったコットン・ベイベ(赤ちゃんの人形)などの新たなオリジナル商品の開発と販売も行っている。有機農法による綿花栽培からものづくりまで、多くの人々がかかわることを通じて、福島への希望と未来を、今と次代を生きる人々の手で実現したい。

プロジェクトは、県内各地に広がっている。また、かかわる方たちもより広範になっている。

今日までに一万を超えるボランティアにもご協力いただいた。ぜひ多くの企業・団体の皆さまに、コットン畑のオーナーになっていただき、人が土と触れ合う研修の場などとして畑を活用していただくことをお願いしたい。また、子どもたちの農業体験ツアーへの協賛などで、福島発のオーガニック・コットン・プロジェクトを支えていただきたい。

複合体験施設「MORIUMIUS (モリウミアス)」を開業



公益社団法人
sweet treat 311
立花 貴氏

■事業概要

宮城県石巻市旧雄勝町地区で、世界の子どもたちに、人の暮らしや一次産業と自然が共存する環境に触れる体験を提供する、複合体験施設の開業に挑戦。

私たちは、築92年(1923年設立)の廃校をリノベーションして、循環する暮らしや多様性を学び、サステナブルに生きる力を身に付ける複合体験施設の開業を目指してきた。そして、今夏いよいよそれが実現する。

「MORIUMIUS (モリウミアス)」というこの施設に、世界中から多くの子どもが集まることで、超少子高齢化・過疎化が進む雄勝の交流人口が増え、若者がまちに戻りたいと言える仕事生まれ、地域が活性化していくようにしたい。過疎地域を育て、日本の未来につながるグローバルな地域のモデルにするのが夢だ。

目下の課題は、事業を創出し推進できる人材の不足だ。現在、民間企業から三名の出向者がおり、三年間共に活動している。企業の皆さまには、人材の出向に加え、社員研修やミーティングの場として「モリウミアス」を積極的に活用していただくことをお願いしたい。

仕事体験を通じて「生きる力」を学ぶ施設を運営



一般社団法人
福島復興ソーラー・
アグリ体験交流の会
半谷 栄寿氏

■事業概要

福島県南相馬市で、太陽光発電と農業体験を通じ、福島の子どもたちの成長支援と全国の人々との交流を行い、風評被害の払拭、信頼回復に挑戦。

仕事体験を通じて「生きる力」を学ぶ施設、「南相馬ソーラー・アグリパーク」を2013年3月から運営している。施設では500kWの太陽光発電を行っているが、これは売電ではなく人材育成が目的だ。私たちは福島県内の小・中・高校生を対象とし、太陽光発電と農業体験を通じた「他人や地域に貢献できる人材育成」に取り組んでいる。

例えば、高校生を対象にしたスクールでは、旬の農産物と、福島の生産者の思いを伝える情報誌『高校生が伝えるふくしま食べる通信』をセットにした食材付き情報誌を創刊した。このように、若い人材が自らの力で事業を起こすことで復興に貢献し、その姿に子どもたちが憧れて自分も事業を起こそうとする「憧れの連鎖」によって、復興を担う人材を次々と生み出したい。

私たちの活動の礎は企業とのパートナーシップであり、今後も皆さまの幅広い協力をお願いしたい。

避難生活を強いられている障がい者の居場所づくり・仕事づくり



特定非営利活動法人
しんせい
富永 美保氏

■事業概要

福島県郡山市の「交流サロンしんせい」で、避難生活の続く障がい者の自立に向けた支援活動、被災の影響を受ける就労系事業所の支援活動に挑戦。

私たちは、「交流サロンしんせい」で、双葉郡から避難している障がい者(障害者手帳の有無を問わない)の交流を支援している。同時に、長期避難の続く福祉事業所等に対して、企業や支援団体と協働して、古着等を再生する裂織によるカバン、「魔法のお菓子・ぼるぼろん」などの商品の製造販売を実施し、支援活動を行っている。「しんせい」という名前は、「被災地の再生ではなく『新生』を」という思いでつけたものであり、「新しい福島」をつくる活動を展開している。

このような活動を通じて、障がいがあるなしにかかわらず、誰もがつながって、誰にでも役割があることを実感できる社会を実現したい。今後も活動を継続できるように、企業の皆さまには私たちのパートナーとして豊富な知識や技術を提供していただき、付加価値の高い商品を生み出していきたい。また、商品PRや販路拡大にも、企業の皆さまのご協力をお願いしたい。

特産のりんごを使った農業の六次化を通じて地域を活性化



一般社団法人
SAVE TAKATA
佐々木 信秋氏

■事業概要

岩手県陸前高田市で、農業の六次化、若者流入の仕掛けづくり、IT人材育成を展開。りんごの社内イベント販売や社生活用にも挑戦。

過疎地域である陸前高田の課題を解決することで、日本の未来を創る地域づくりを目指したい。私たちの活動の一つに農業がある。全国的にも珍しい、海のそばで生産された陸前高田特産の米崎りんごをジュースやジャムに加工し、地元事業者や福祉施設に販売を依頼するなど、農業の六次化に取り組んでいる。同時に、全国約63万人の若年無業者に対する就農提供を通じ、自立支援・担い手づくりにも挑戦中だ。「若年無業者再生の町・陸前高田」を実現し、地域を活性化したいと考えている。

事業の鍵は「人」にある。私たちの事業も、人生を賭けてくれる人材がいないと、どんなに豊富な資金や立派な事業計画があっても、成り立たない。そのような観点から、ぜひ企業や個人の皆さまに、米崎りんご事業や、若年無業者再生事業など、過疎地域の課題解決に取り組む私たちの活動にご協力いただきたい。